

▽取組事例名	公共交通空白地帯解消に向けたデマンドバス運行	▽取組期間	平成22年度～ (継続中)
		▽市町名	内子町

▽取組概要
<p>現在の町営バスの運行方式（定時停留所）から、需要に応じて自宅付近まで運行する方式（デマンド）に移行する。</p> <p>運行方法については、集落内の狭小な道路幅員でも運行を可能とするため、車両を小型化し、より自宅付近での乗降を可能とするとともに、既存の運行ルートではカバーできなかった交通空白地域も解消し、利便性の高い地域の公共交通としての役割を果たす。</p>

▽取組みの背景
<p>内子町には、151行政区の内27行政区が小規模高齢化集落である。該当地区へ聞き取り調査を行った結果、交通手段のことが全ての集落においての課題としてあげられた。高齢者の多い地区にとっては、日用品の購入や病院への通院など交通手段の確保は大きな課題である。</p> <p>町営バスの現在の運行方式が、使用者のニーズに十分対応できていない現状があり、時刻によっては無客で運行する路線も多く発生している。そのため、利用者は年々減少する傾向にあり、経費の抑制を行っているものの毎年多額の赤字を計上している。</p> <p>このような現状を解消するため、利便性の向上と効率的な新運行方式の構築が急務となっている。</p>

▽取組みの狙い・具体的内容
<p>(取組みの狙い)</p> <p>町営バスを利用するうえでバス停までが遠い、運行時刻が早いなど住民が望む運行体系となっていないことから、利用者が減るという負の連鎖を招いている。そのため、住民のニーズに対応できる方式への転換と運行業務の外部委託など運営費の削減を図り、継続できる事業体制を確立する。</p>
<p>(具体的内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度 福祉部門、教育部門、自治会との協議。新システムを提言し、デマンドモデル路線沿線へ聞き取り調査を行った後、小田地区（旧小田町）全域にアンケート調査を実施。 ・平成22年度 現行路線の新運行案を提示し協議を行う。2路線（大平・南山）でデマンドモデル運行を行う。 ・平成23年度 小田地区の残枝線が関係している8自治会と新運行案の調査・協議を実施。 ・平成24年度 小田地区全域でデマンドバス運行を8月1日から開始予定。五十崎地区で新運行案の調査・協議を実施。 ・平成25年度 内子地区で新運行案の調査・協議を実施。

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）
<p>アンケート調査や聞き取り調査結果から、利用実態に即した各路線週2日運行に変更している。利用者からの要望は出されていないが運行日等が減少していることから、買い物などで急に外出が必要となった時に対応ができるようにシステムの改良も検討したい。</p> <p>また、既存の運行システムと大きく異なる方式（デマンド：予約制）のため、主な利用者である高齢者が容易に予約できる工夫も必要である。</p>

☆工夫した点
<p>一定の制約はあるが、運行予定地域内の住民協議によって運行曜日・時刻を決定。可能な限り取り入れることにより、地域の足、地域のバス意識の啓発を行った。また、アンケートや聞き取りによる要望調査、バスの利用状況、経営実態を説明し改善の必要性を唱え、行政からの一方的な改正案とならないように見直しを図った。</p>

▽取組みの効果

町営バス（2路線）をモデル地区とし路線定期運送方式からデマンドバス方式に移行したことにより、平均乗車率が改善された。また、町営バス全体の運行経費も民間委託の推進により赤字額が徐々に減少している。今後、他の路線をデマンドバス方式に移行することによって公共交通空白地域の解消が見込まれている。

・平均乗車率

デマンドバス導入前の1便平均乗車率	H21年度（大平線0.9人 南山線1.2人）
デマンドバス導入後の1便平均乗車率	H23年度（大平線3.0人 南山線2.3人）

・町営バス運営経費

年間収支	H21年度△4,444万円
	H22年度△3,650万円
	H23年度△3,554万円

▽住民（職員）の反応・評価

バス停までの移動が困難で利用を断念していた住民も、自宅付近から乗降できるようになり利用しやすくなったとの声がある。

現行の代替バス路線は、定時に運行しているため何時でも利用できるという安心感があるが、デマンドバスは電話での予約が必要であり、煩わしいと少なからず思う方もいるようである。

☆取組み効果を踏まえたフォローアップ

自宅近くで利用が可能となったが、運行距離が延びるため、高齢者にとっては乗車時間が苦痛にならないよう行きと帰りのルートを変えて公平性を保つ工夫をしている。また、住民が利用しやすいように運賃改定を検討する。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

内子町全体でデマンドバス方式の導入を目指しているが、利用者の絶対数が減少していく中、将来的に運行区域、必要車両台数、経費面など見直しが必要となってくることから、さらに効率的な運行体系を検討する必要がある。